

楽器〈フグジミン・ゼムセグード〉(絵本) D0128

ウランバートル/モンゴル

モンゴル—草原のかおりをたのしむ



“Хөгжмийн Зэмсгүүд”

1. Чулуун хөгжим 〈チョローン・フグジム〉

石の楽器・・・薄く平たい石を、木槌でたたいて音をだす。

2. Морин хуур 〈モリン・ホール〉

馬頭琴・・・その音は、まさに駆けている馬群の蹄のひびきのようにきこえる。モリン・ホールには二種類の弦がある。細い弦はジリクといって乳馬の尾っぽの毛でできている。太い弦はアルガといい、種馬の尾っぽの毛で作られている。一年をあらわす 365 本の毛を、太さで分け、弦と弓につかっている。

3. Хулсан хуур 〈ホルサン・ホール〉

竹笛・・・ホルサン・ホールを演奏するときには、声を出さずに話すようにくちびるを動かす。この小ぢんまりした楽器で曲を演奏するだけでなく、さまざまな音、事象、動きを表現（音まね）することもできる。

4. Ятга 〈ヤトガ〉

琴・・・ヤトガの弦は両手の指をつかって引っぱったり、たたいたり、押ししたり、はじいたり、よじったりして音を奏でる。

5. Шударга 〈ショダルガ〉

三本の弦からなる楽器・・・ショダルガの棹はびやくだんの木でできていて、非常に長い。胴の部分は巨大なヘビの革でできている。主に、中が空洞になっている丸い竹でたたいて演奏する。

6. ЭвэрбҮрээ 〈エウエル・ブレー〉

角笛・・・動物の角でつくられる楽器。むかしは、獵師や牧畜民、見張り番たちの合図などとしてつかわれていた。

7. БишгҮүр 〈ビシグール〉

笛・・・この楽器は、しんちゅうと銅と木で精巧につくられている。竹を薄くしたものを吹いて音をだす。

8. Их хуур 〈イヒ・ホール〉

大型の二本の弦を弓ではじく楽器・・・イヒ・ホールは 1960 年代にはじめてモンゴルでつくりだされた。モリン・ホールの形や和音はそのままに、寸法を大きくしたものである。

9. Товшуур 〈トウショール〉

丸い胴をもつ琵琶に似た楽器・・・モンゴル西部で非常に発達した楽器。胴はヘビの革や、ヤギのものつけ根の薄革、ウシの心囊の皮でできている。家畜の腱や毛、細い絹糸でできた弦を親指と人さし指で軽くたたくように演奏する。

10. Хуучир 〈ホーチル〉

二胡・・・細い弦の上を指でかたくたたいて演奏する。民謡や讃歌、物語などの弾き語りにも適しており、独奏も協奏もできる。

11. Лимбэ 〈リンベ〉

笛・・・草原のあちこちに生えるダイオウという植物の乾燥した軸に穴をあけ吹いていたところから着想をえて、この楽器がつくられた。リンベは多くの場合竹でつくられるが、鉄やプラスチックでつくられることもある。

12. Ёочин 〈ヨーチン〉

洋琴・・・この楽器を四つ足の台にのせ、弦を二本の竹でできたばちでたたいて演奏する。